

2017年5月10日

国際トライアスロン連合 (ITU)
公益社団法人日本トライアスロン連合 (JTU)
世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会
NTT グループ

トライアスロン競技における

トラッキングデータを活用した実証実験の実施について

NTT グループ (日本電信電話株式会社およびその子会社・関連会社) 及び、国際トライアスロン連合 (以下、ITU)、公益社団法人日本トライアスロン連合 (以下、JTU) は、2020を見据え、競技中の選手データをリアルタイムで収集、配信できるライブトラッキングシステム (以下、本システム) の導入検討に向けた実証実験を、世界トライアスロンシリーズでは初めて、2017年5月13日、14日に開催される2017世界トライアスロンシリーズ横浜大会 (以下、横浜大会) にて実施いたします。

これらにより、大会出場選手、運営者の利便性を高めるとともに、観戦体験の魅力度を大幅に高め、パラトライアスロンも含めたトライアスロン大会をより充実させることを目指します。

また、横浜大会で実証した結果をもとに、2018年以降の「世界トライアスロンシリーズ」全9大会での本システムの導入に向けて ITU・JTU・NTT グループと連携し、検討・推進してまいります。

1. ライブトラッキングシステムの概要および実証実験について

本システムでは選手に専用のセンサーを装着することで位置情報、速度等を、沿道に設置された Wi-Fi アンテナを通じて収集いたします。データをリアルタイムに収集し、各種媒体へタイムリーに情報配信を行うことで新しい観戦体験が可能となります。

横浜大会では、エリートトライアスロン男女選手(※1)のバイクとランを対象とし、計測データアップロード時の正確性や配信時のタイムラグなどの検証を行います。

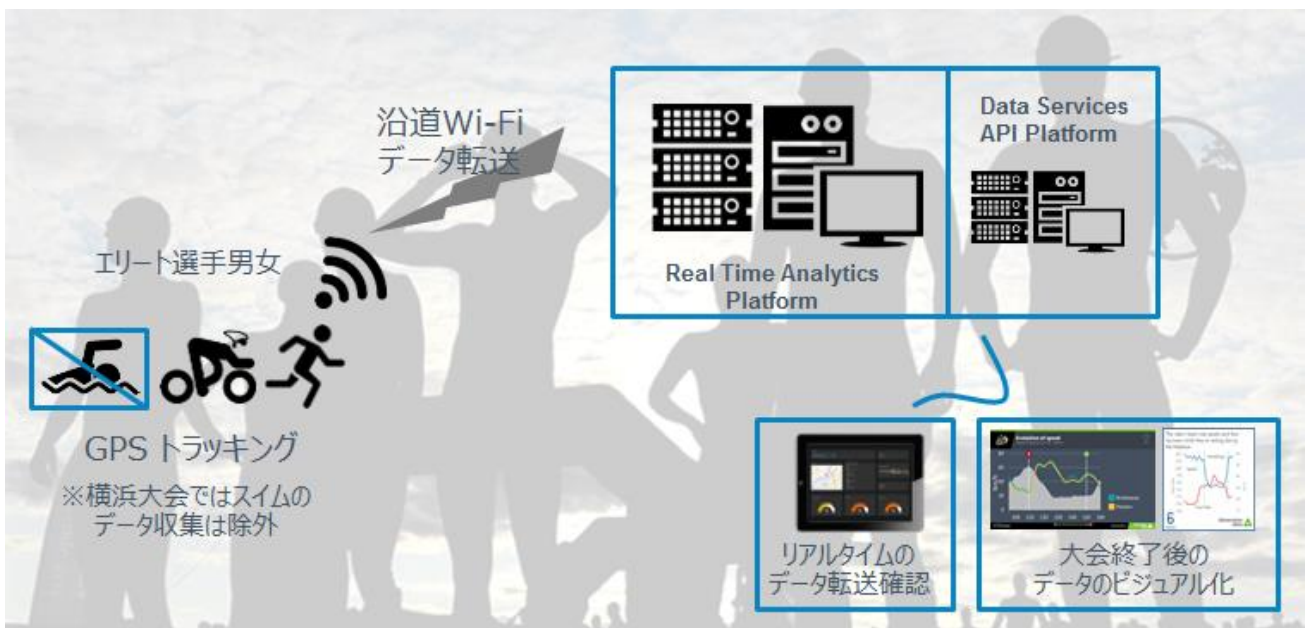
なお、本システムは、NTT グループのディメンションデータがツール・ド・フランス 2016 (※2) でご提供したデジタルサービスをベースに開発しております。

※1 エリート：トップ選手の呼称

※2 ツール・ド・フランス 2016 でご提供したデジタルサービスのイメージ映像は以下のとおりとなります。

<https://www.youtube.com/watch?v=MkbbkXgOcbwE>

ライブトラッキングシステム 実施領域イメージ



選手に装着する専用センサーイメージ



Wi-Fi アンテナイメージ



2. ライブトラッキングシステムにおける今後の予定

横浜大会で実証した結果をもとに、2018年以降の「世界トライアスロンシリーズ」全9大会での導入に向けてITU・JTU・NTTグループと連携し、検討・推進してまいります。また、スイムへのライブトラッキングについても、導入を検討していきます。

(別紙) 各社の役割

■ ライブトラッキングシステムの実証実験における各社役割

ITU	ライブトラッキング実証実施に向けた意思決定及び運営調整
JTU	ライブトラッキング実証実施に向けた推進及び ITU との各種調整
ディメンションデータ	ライブトラッキングシステムの提供
ディメンションデータ ジャパン	トラッキングシステム構築に向けた横浜大会における技術サポート
NTT 東日本	<ul style="list-style-type: none">・横浜会場での Wi-Fi 環境の構築・ライブトラッキング実証実施に向けた現地運用支援
NTT コミュニケーションズ	データ伝送用沿道 Wi-Fi におけるインターネット環境の提供
NTT	ライブトラッキング実証実験における全体プロジェクト支援

以上